

医療福祉のプロがすすめる 孤独・社会的孤立・つながり を考える1000冊

結城 俊也編 A5・300頁 定価(本体12,000円+税) ISBN978-4-8169-2854-3 2020年11月刊行

最新のエビデンスに基づき 専門家が編んだレファレンスツール

- 糖尿病、がん、認知症、抑うつなどのリスクにつながる「孤独」「社会的孤立」。そしてそれを防ぐ、「人間同士のつながり」をテーマにした初の図書目録です。
- 専門理学療法士で医療福祉学の博士号を持つ編者が「孤独死」「貧困」「ひきこもり」「正義中毒」「ソーシャルキャピタル」などの77項目について解説、関連書籍1,031点をセレクトして紹介します。
- 「著者名索引」「書名索引」付き。

【編者プロフィール】

結城 俊也 ゆうき・としや

23年間にわたり千葉中央メディカルセンターに勤務。現在、都内の障害者施設に勤務しながら、図書館等において医療健康講座を開催している。専門理学療法士(神経)、介護支援専門員、博士(医療福祉学)。著書に『認知症予防におすすめ図書館利用術 フレッシュ脳の保ち方』(日外アソシエーツ、2017)、『認知症予防におすすめ図書館利用術3「調べる力」で脳を活性化』(日外アソシエーツ、2019)など。共編に『リハビリのプロがすすめる健康寿命を延ばす1000冊』(日外アソシエーツ、2018)などがある。

リハビリのプロがすすめる 健康寿命を延ばす1000冊

結城 俊也・坂本 宗樹・鈴木 光司・二宮 秀樹 共編

A5・350頁 定価(本体9,250円+税) ISBN978-4-8169-2706-5 2018.2刊

【目次】

■孤独と向き合う

孤独の心理学・脳科学／中高年者の孤独／ソーシャルメディアと孤独／孤独の対処法／「ひとり老後」との付き合い方／孤独という生き方／孤独・孤立と健康格差／在宅ひとり死／孤独死：孤独死の実態、特殊清掃・遺品整理、地域・被災地・団地、セルフネグレクト、心構え・防止策／死別の悲しみ・孤独感に寄り添う：グリーンケア総論、子どもとの死別・親との死別、自殺

■社会的孤立と包摂

社会的孤立：総論、対策／社会的排除と包摂(ソーシャルインクルージョン)／差別・偏見

■社会的孤立の諸相1—貧困など

貧困：総論・理論、女性の貧困、子どもの貧困、若者の貧困、中年(大人)の貧困、老後の貧困、ワーキングプア／ひきこもり：社会心理学的考察、当事者の語り、大人のひきこもり、不登校に対する支援、青年・中高年に対する支援／無業者／ホームレス：ホームレスの実態、ネットカフェ難民、社会学的考察、暴行事件、支援／買い物難民(買い物弱者)

■社会的孤立の諸相2—セクシャルマイノリティなど

セクシャルマイノリティ：基礎知識、ライフストーリー、学校・職場環境／障害者／外国人労働者

■社会的孤立の諸相3—介護問題など

介護問題：介護疲れ・おひとりさま介護、介護離職、介護殺人／いじめ：構造、インターネット／ハラスメント：モラハラ・パワハラ・セクハラ・マタハラ、DV、その他／正義中毒

■つながりを考える

つながるということ／つながり一関係力：大人の間関係、友達づくり(大人)、大人女子・ママ友の間関係、友達づくり(子ども)／居場所：心理学・社会学、コミュニティカフェ・サードプレイス、子どもの居場所、その他／社会的ネットワーク／ソーシャルキャピタル：総論・理論、経済・企業、健康・福祉、教育、地域／地域でつながる—地方創成／ソーシャルメディアでつながる

著者名索引

書名索引

2020.10

お問い合わせは… 日外アソシエーツ 営業局

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <http://www.nichigai.co.jp/>

■書店名

注文書

医療福祉のプロがすすめる
孤独・社会的孤立・つながりを考える1000冊

定価(本体12,000円+税) ISBN978-4-8169-2854-3

冊



9784816928543

孤独と向き合う

「ひとり老後」とのつき合い方

「ひとり老後」とのつき合い方

【解説】「ひとり老後」という言葉にはどこから寂しい感じがつきまとう。しかし、意外にもひとり暮らしの高齢者の方が、家族と同居している高齢者よりも生活の満足度が高いとの報告がある。どうやらひとり老後は知恵と準備次第で充実したものにできそうだ。そのためには他人の実践例を参考にすることも一つの方法だろう。人生100年時代、多くの人が「ひとり老後」を経験するはずだ。ひとり暮らしのメリット、デメリットを踏まえたうえで、自分なりの「つき合い方」を見つけてほしい。

おすすめ書籍

『老いの器量』 下重暁子著 海竜社 2020.4 197p 18cm 〈一般注記：「老いの覚悟」(2011年刊)と「老いの戒め」(2013年刊)からの抜粋、再構成〉 1000円 ①978-4-7593-1691-9

【目次】第1章 年をとったことを、言い訳にはしてはいけない。(年をとるということは、その年代の気持ちがわかるようになるということ。、忘れたことを恥じることはないけれど、得意なことだけは手放さない努力をしたい。ほか)、第2章 年をとったらどっしり構えて、器量の大きさを見せたい。(老いは、その人が生きてきた結果である。長い道程が、器量のある老人と器量のない老人を生む。、人は見かけによる。直感だけでその人を見抜く力を身につけたい。年を重ねて多くの人と接することで、人を見る目ができてくる。ほか)、第3章 人から見られているという緊張感、その人を美しくしてくれる。(美しさは、その時その場所の自分に似合うものを身につけることから。年をとったら、本当にいいものを少しだけ。心地よいものをいつまでも着られるように知恵を働かせたい。ほか)、第4章 長く生きてきたということは、それだけ自分を理解する時間があったとい

とう。、人に判断をすることができる。ほか)くる時も一人、逝くているものは惜しげ

【内容】思い通りにゆいてわかった人生の

『孤独こそ最高の老後』 書 482) 830円

【目次】第1章 孤独をいさえあれば十分、度こそ、孤独なほう

【内容】老後は孤独だ、終活などで。確かに人がいるからこそ、歳を超えた今までも、そう確信するに至るまで、実践できるか

専門家による
項目の解説と
おすすめ図書

居場所

つながりを考える

居場所

【解説】「ここに居場所はない」とはよく聞く言葉だ。人がこのように言うときの「居場所」とは、単に物理的な空間としての場所ではない。それは「心の居場所」と表現されるように、安心した心理状態をも包含したものであることは言うまでもないだろう。私たちにとって「居場所」とは、社会生活を営む上で基礎となるものだ。他者に必要とされ、自分らしさを発揮できる場所をもつことは、自己肯定感の醸成にとって重要となる。

してみれば社会的孤立に苦しんでいる人というのは、ここでいう「居場所」のもてない人—他者からの承認の毀損により、自己肯定感の欠如した人—と言うことができまいか。ひきこもりやホームレスなどの社会的孤立問題を「居場所」という概念から考えてみるのも興味深い。

《心理学・社会学》

人は誰でも自分の居場所を探している。どうしたら居場所を見つけることができるのだろうか。居場所探しで隘路に陥ってしまった人は、そのヒントを心理学や社会学の知見に求めてみてはどうか。目の前の霧が晴れるかもしれない。

おすすめ書籍

『心理臨床と「居場所」』 中藤信哉著 大阪 創元社 2017.3 186p 22cm (アカデミア叢書) 〈書誌注記：文献あり 索引あり〉 3400円 ①978-4-422-11643-3

【目次】「居場所」研究の心理臨床学的意義、「居場所」概念の歴史性と先行研究、「居場所」概念と日本の文化的特性、「居場所のなさ」について、「居場所」と「自分」、心理臨床実践における「居場所」の視点、現代的状況における「居場所」と心理療法の意義、心理臨床と「居場所」

『「自分の居場所」をつくる心理学』 加藤諦三著 新版 PHP研究所 2010.1 159p 19cm (B6) 1000円 ①978-4-5697-7471-8

【目次】第1章 “一生懸命さ”は不安からの逃避にすぎない、第2章 気兼ね人間の愛は何故しつこいか、第3章 神経症者の不幸な結末、第4章 前向きになれないのは不安だからである、第5章 何故 “居場所”を探してしまうのか、第6章 あなたは本当は何がしたいのか

【内容】心の底の「のけ者意識」が、あなたの人間関係をギクシャクさせている。ありのままのあなたの “居場所” をみつけるヒントが、ここにある。

『自分の居場所のみつけかた』 斎藤学著 大和書房 2007.10 200p 22cm (暮らしの知恵) 1500円 ①4-479-79161-2